

上牧町

～町制施行 50 周年 “ほほ笑み” あふれる “和” のまちづくりを目指す～

奈良盆地西端に位置する上牧町は、奈良県内 18 番目の町として 1972 年 12 月に誕生し、2022 年 12 月に町制施行 50 周年を迎えた。

丘陵地帯を生かした田園風景が広がる一方で大阪の中心部までバスと電車を乗り継いで 1 時間の立地であることからベッドタウンとして発展を続けている。教育や福祉を充実させることで町民が幸せを感じ、心が豊かになることで生まれる「ほほ笑み」があふれる街を実現させるため、町民、議会、行政の連携体制により“和”のまちづくりを目指している。

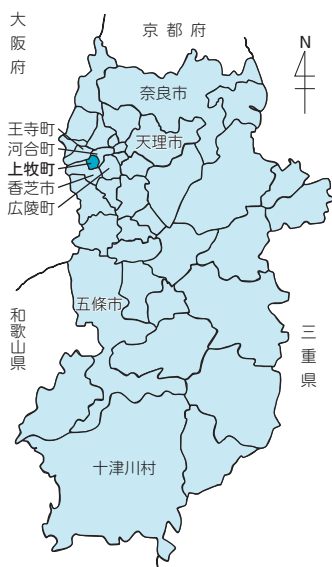
I 概要

1. 地理

上牧町は奈良盆地の西部にあり、町の西側を葛下川が、中央を滝川が流れ、丘陵地帯が広がる人口 21,714 人（県内 39 市町村中 18 位）、世帯数 8,558 世帯（同 18 位）、面積 6.14km²（同 36 位）の町である（総務省「国勢調査 人口等基本集計」（2020 年））。東西 2.1 キロメートル、南北 3.6 キロメートルのほぼ長方形であり、北は王寺町に、東は河合町、南は広陵町、西は香芝市に接している。

町内に駅はないが、JR 大和路線王寺駅または近鉄大阪線五位堂駅までのバス路線があり、バスと電車を乗り継げば大阪の中心部まで 1 時間以内、車でも西名阪自動車道香芝 IC を使えば 1 時間以内と大阪方面へのアクセスが良好である。

上牧町の位置図



2. 歴史

明治 4 年の廃藩置県で奈良県の上牧村、下牧村となり、明治 22 年の町村制実施により中筋^{なかすじ}・つさく^{つさく} 出作

地区を加えて上牧村となった。「かんまき」の呼び名の起こりは、「日本書記」「続日本記」によるとこの地一帯がゆるやかな丘陵地帯で放牧に適しており、上の牧場、下の牧場があったところからではないかとされる。その後、大阪市内に通勤・通学しやすい立地からベッドタウンとして宅地開発が進んだことで人口が増加し、昭和 47 年 12 月に奈良県内 18 番目の町として上牧町が誕生した。同町は呼び名の由来である“牧場”にちなんでキャッチフレーズを「ペガサスタウン上牧町」としている。

3. 産業構造

従業地による就業者人口（15 歳以上）の産業別割合を見ると、第 1 次産業が 0.8%、第 2 次産業が 24.3%、第 3 次産業が 74.9%と、奈良県全体（順に 2.4%、22.1%、75.5%）と比べて第 2 次産業のウエイトが高い（総務省「国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計」（2015 年））。

民営事業所数は 572 か所（県内 19 位）で従業者数は 5,158 人（同 18 位）となっている。（総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」速報（2021 年））。

II 今中町長へのインタビュー

上牧町では、2009 年 3 月の就任以来 4 期目に入った町長の今中富夫氏がリーダーシップをとり、

まちの将来像「“ほほ笑み”あふれる“和”のまちづくり」の実現に取り組んでいる。ここでは町長のまちへの想いを紹介したい。

今中富夫上牧町長より

【便利さを保つ】

鉄道の駅が無いまちであることから、交通アクセスの利便性を維持するためには民間のバス路線が維持されるようなまちづくりの優先度が高いと考えています。

【子育てや福祉について】

子育て中の住民にとって重要な点は「①子供を預けられる、②経済面の負担が少ない、③教育が充実している」ことであり、それらの点に配慮した施策を実現させたい。また、少子化による学校の統合については慎重に検討を進めており、子供たちの心の健康に配慮することが重要だと考えています。

【産業】

まちが活気づくためには商工業者の方々が主体的に動くことが大切だと考えています。商工会では会員の経営者が代替わりし、キャラクターの考案や名物になる商品を開発する取り組みが生まれています。まちが盛り上がるので、今後も経営者への支援を継続したいと考えています。

Ⅲ 町制施行 50 周年

1. 町制施行 50 周年記念式典

町制施行 50 周年記念式典が 2022 年 11 月に町文化センター「ペガサスホール」で開催され、町内外から来賓や関係者が出席した。

同式典では町民の一人ひとりが「主人公」となり一緒に盛り上げたいという趣旨で制作された 50 周年記念映像「未来へ やさしく 力強く」が上映された。記念映像には公募で選ばれた多様な住民（①子育て真っ最中の親子、②3 世代同居の家族、③70 歳以上の夫婦、④年内に出産を控えた夫婦、⑤中高生、⑥長年同町に住んでいる方、



上牧町町制 50 周年記念式典

⑦最近上牧町に転入した方）が出演し、まちの魅力を伝えている。



上牧町町制施行 50 周年記念映像

▶ ウェブサイト

<https://www.youtube.com/watch?v=iCH07u3fIMc>

2. 劇団ペガサス特別公演

まちの文化の発信拠点として 1993 年に上牧町文化センターが開館し、それに合わせてミュージカル劇団「劇団ペガサス」が結成された。

同町が主宰し、町の花である笹ゆりをテーマにしたミュージカル「花の記憶」が 2022 年 11 月 6 日に公演され、フィナーレでは同町の未来を見据えた雰囲気を醸し出し、将来のまちづくりに夢や



劇団ペガサス ミュージカル「花の記憶」

希望を抱かせた。

3. タイムカプセルオープンセレモニー

31 年前に住民が書いた手紙や当時のまちの資料等を取めたタイムカプセルが町制施行 50 周年に合わせて開封された。

2022 年 10 月のオープンセレモニーでは当時手紙を収納した 3 組の住民が自ら書いたメッセージを読み上げ、会場は穏やかな雰囲気に包まれた。



タイムカプセルオープンセレモニー

4. 片岡城のかつての姿を CG で再現

町内に城跡が残る片岡城は小高い丘陵上に築かれた山城で、眼下に葛下川が流れていた。片岡国春によって築城され、永禄 12（1569）年に松永久秀と戦い落城した片岡城はその後松永方の城として改修・整備されたが、天正 5（1577）年に織田信長を裏切った久秀を討ち取ろうと明智光秀ら織田家の有力武将の攻勢で落城し、その後廃城となった。

このたび AR（拡張現実）などの先端技術を使い、片岡城跡にある「再現スポット」でスマートフォンを利用してかつての片岡城の姿を楽しむようになったことで、史跡としての認知度向上が期待される。



片岡城復刻 AR（拡張現実）による再現

5. PR キャラクター

町の地域活性化やにぎわいづくり、郷土愛醸成の一環として、健康・環境・文化をテーマとした秋のイベント「ペガサスフェスタ 2022」で、同町の PR キャラクター「ゆりはちゃん」が発表された。

過去に町が作成した「片岡城 笹ゆり姫物語」に登場する「笹ゆり姫 佐草姫」をモチーフに、PR キャラクターとして制作された。

戦国時代、片岡城を居城とした佐草姫はその明るいふるまいから人々に慕われた。その姫が大切に育てていた「笹ゆりの花」が長い年月をかけ、姫の意思を受け継ぎ、現代に姿を変えて降り立った。それが「ゆりはちゃん」である。



モチーフとなった笹ゆり姫 佐草姫

町では身近に感じてもらえるように、イラストの使用承認

や着ぐるみの貸出を行うとともに広告塔として様々な場面で活用する予定としている。

さらに、上牧町商工会でもペガサスタウン上牧町のキャッチフレーズを意識して、ペガサスになることを夢見る馬をイメージした「上牧べたろう」を考案した。



上牧町の PR キャラクターゆりはちゃん（右）
上牧町商工会考案の上牧べたろう（左）

6. 黒カレー

上牧町商工会では新型コロナウイルス感染症により影響を受けた飲食店等への支援や、地域振興

を目的に町内の飲食店や製造加工工場、その他会員企業の協力によって「片岡の里 春ちゃんの黒カレー」を完成させた。ふるさと納税の返礼



片岡の里 春ちゃんの黒カレー

品にもなっており、商工会では町の名物化を目指して、黒カレーの種類を充実させる方針で第2弾、第3弾と続く商品展開を進めている。

7. その他

・ご当地ナンバープレート

町民に町への愛着を深めてもらうため、「ゆりはちゃん」と「笹ゆりの花」をモチーフとしてデザインした125cc以下の原動機付自転車のご当地ナンバープレートを作成した。



原動機付自転車
ご当地ナンバープレート

・絵本「かんまきかわらのおはなし」

未来を担う子どもたちの郷土愛を育むことを目的に、飛鳥時代に存在した瓦製作等（同町滝川に所在する大谷瓦散布地）に関する絵本を完成させた。



絵本 かんまきかわらのおはなし

・記念切手

町の歴史遺産や観光スポット、町PRキャラクターなど、町の魅力が掲載された切手を発行した。



オリジナルフレーム記念切手

・菊人形展「花で彩る片岡の里」

片岡城の周辺で戦国時代に生活していた人々をイメージした菊人形がペガサスホールのロビーに展示された。



菊人形展「花で彩る片岡の里」

・メタセコイアイルミネーション

令和4年12月、上牧町役場駐車場にある全長約25メートルのメタセコイアが15,000球のLEDで彩られた。点灯式では、商工会からお祝いの花火が打ち上がった。



メタセコイアイルミネーション・
商工会花火

今中町長は町制施行50周年記念式典のあいさつで「一旦は離れることがあっても、いずれ帰りたくなるような、そんな心が安らぐ場所を守り、“ふるさと上牧”と思ってもらえる魅力あるまちを作り上げていくことが今の私に、また時代に課せられた使命であると思っています。」と想いを語られた。節目の年を経た同町の今後の飛躍に注目したい。

(林 大祐)